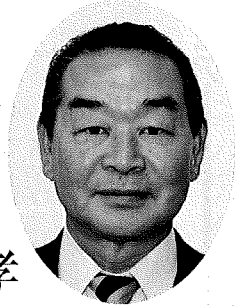


## 日本一のクリ産地で、 六次産業化に取り組む

全国果樹研究連合会 クリ部会長  
茨城中央農業協同組合 代表理事組合長

川上 好孝



「クリは、あまり金にはならない。でも畑を荒らしとくのは忍びないからクリを植えた」などと、クリ生産農家の声が聞こえる。

今までのやり方ではダメだ。皆で意識改革していかなければならないと、親から農業を引き継いだときからの思いでありました。

私は、昭和三二年、専業農家の次男に生まれましたが、若い私の心は、広く世界を見たくてトヨタディーラーに入社し、その後、ラリーチームに所属し、サファリ、サザンクロスラリーなどにチームの一員として出場しました（成績は聞かないでください）。農業者としては少々異色の経験をしていると自負しております。そのときにお世話になった人、見たもの、聞いたもの、そのすべてが私の大きな財産となっております。

農業とは異質の社会人デビューでしたが、今思えば郷愁でしょうか、昭和五八年に実家である茨城県笠間市に戻り、農業者として第一歩を踏み出しました。農協のクリ生産部会に所属し、生産農家の

収入安定に役に立ちたいとの思いから、生産部会長を引受ました。

それから年を重ねるごとに農業の現実を考えると、農業を政策的な面から改革していくことの必要性を実感し、旧友部町（現在、合併で笠間市）の町議会議員を務め、皆様のご支援をいただき、平成二〇年から二期町長を務めさせていただきました。その間、私はブレなく一貫して農家の収入安定、担い手の育成を図ってまいりました。

そして、平成二二年、現職である茨城中央農業協同組合長となり、おりしも国の施策と長年の私の考えが重なり、これだと思ひ日本一のクリ産地茨城の牽引役を担う笠間市において、クリの生産、加工、販売を担う六次産業化に取り組みました。

これまでの農協は、生産者が生産したものをおもに卸売市場に出荷するだけ、価格は市場任せです。クリはそのままでは安いです。加工品は高級感をもって消費者に受け入れられています。なぜでしょうか。

国産クリの生産量は果実の中で極めて少ない部類にあり、国民一人当たり一〇個も食べたら無くなってしまふ貴重品です。また、農産物のうちは地味な脇役ですが、これが加工品になると伝統、文化、技に育まれた輝く主役となつて女性を魅了しております。

この付加価値を農家の収入に結び付け、さらに地域で新たな雇用を生み出そうというのが私どもがはじめた六次産業化の取り組みです。

農協が主体となり、地域特産であるクリを活用して、日本で初めてとなる「栗粉」の製造工場を設立し、今年から販売を開始する予定です。将来的には地域の魅力を満載した農家レストランも考えております。

産地の活性化に向けた取り組みは緒に就いたばかりです。国、県、市、関係各機関のご支援をいただきながら、アイデアを結集し、地域一丸となつて日本のクリ産地の先駆けとなるようブレずに向かっていきます。